

激動の時代を新しい視点から学ぶ日本近現代史

戦後改革と新憲法

～歴史のなかから日本国憲法をみる～

(<http://jugyo-jh.com/nihonsi/>)

1, はじめに～何が終わったのか



故 伊東 一穂



故 太田 慶治



故 北之防 修治



故 佐藤 俊郎



故 田中 明



故 垂谷 嗣夫



故 仲野 博明



故 松本 旬平

勤労動員中の空襲で亡くなった豊中中学の生徒・関係者
(豊中高校のブログより)



豊中空襲の一トン爆弾の空襲あと
(新免遺跡)

<http://fourseasons.sakura.ne.jp/>

空襲の被災～豊中市

①6月7日、15日、26日、7月9日、
22日、30日の計6回

②罹災人口1万2,951人、罹災家屋3,540、死者575人、負傷者898人

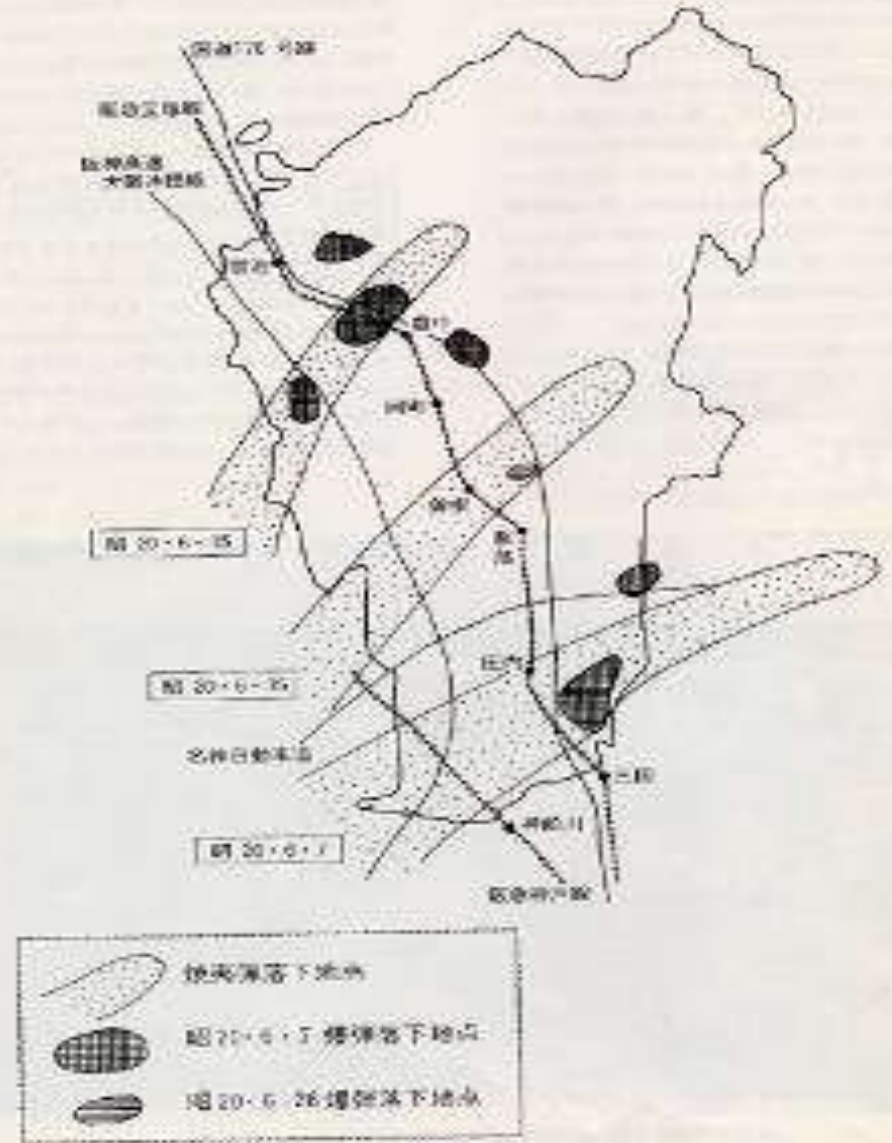
③6月7日の空襲：午前11時過ぎ、409機のB29、138機のP51による焼夷弾と機銃掃射をうける。

・刀根山、本町、千里園、玉井町、
走井、小曾根各地区で大きな被害
・庄内、豊南、神埼川右岸の工場地
帯が爆弾・焼夷弾攻撃

⇒ 勤労働員先の工場で、豊中中学や豊中高女の生徒の多くが死傷した。

豊中市の被災地域図

(市域・鉄道一帯・道沿は昭和55年現在のものです)



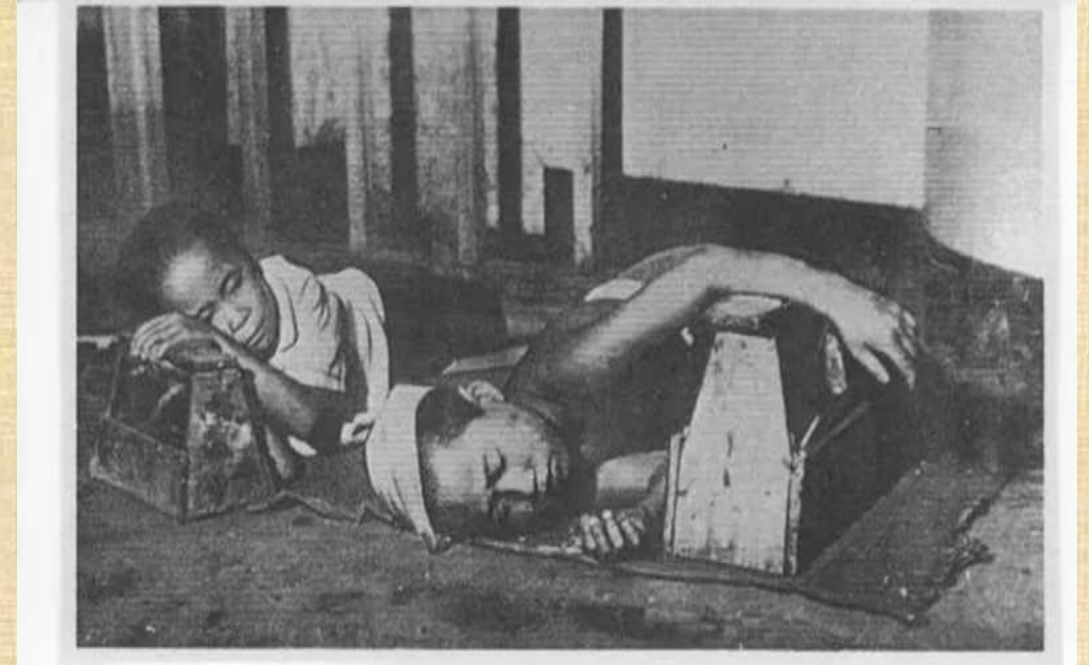
焼け跡と戦災孤児

①焼け跡の生活…バラックや防空壕生活、知人宅での間借り



②名古屋駅の通路で暮らす戦災孤児たち（名古屋）

- ・靴磨きや乞食「かっぱらい」で生活を行う
- ・のみ・しらみにたかられ、餓死の危機のもと
- ・「保護」という名の隔離



「玉音放送」～「戦争」がおわった…

①「玉音放送」

ラジオや放送の性能・難しい言い回し
⇒何を言っていたのか、理解できなかったが

②庶民の反応

泣きつかれた、放心、「ほっとした」
申し訳ない・天皇の英断のおかげ

③電灯を覆う黒い布を外したら…

部屋・家のあかりが街中に広がる
⇒「戦争の終わり」を実感



皇居前に集まり、天皇に敗戦
をわびる人々

Ⅱ、戦争が…終わり、 新しい時代が始まる



空襲の焼け跡に作られたパラック



食糧を得るために買い出し列車で
農村に向かう人々

8月15日に終わったもの

- ①アジア太平洋戦争 1941～
- ②第二次世界大戦 1939～
- ③日中戦争 1937～
- ④日中十五年戦争 1931～
- ⑤戦争の時代「五十年戦争」
日清・日露戦争 1894～
- ⑥ペリーの来航にはじまる



強迫神経症的な近代日本のありかた(万国対峙⇒対外進出)

ちなみに沖縄本島では4月1日の米軍上陸によって終わりが
はじまっていた。

戦争の、近代日本の「呪い」が溶けていく…



闇市の風景

空襲警報、勤労働員、睡眠不足

「隣組・町会・部落会」

国民服・モンペ・「パーマは非国民」

悲しみや苦しみ、怒りを隠すこと
感情を口に出すことは恥ずべき事
心を隠すこと

おなかが減ったといえないこと
肉親や恋人の死を「おめでとう」
といわされる時代

⇒こうした呪縛が解かれ、
古い価値観が崩壊していく…

坂口安吾『墮落論』 ～赤裸々な心になろう～

人間の、又人性の正しい姿とは何ぞや。

欲するところを素直に欲し、厭な物を厭だと言う、
要はただそれだけのことだ。好きなものを好きだ
という、好きな女を好きだという、大義名分だの、
不義は御法度だの、義理人情というニセの着物を
ぬぎさり、赤裸々な心になろう、この赤裸々な姿
を突きとめ見つめることが先ず人間の復活の第一
条件だ。

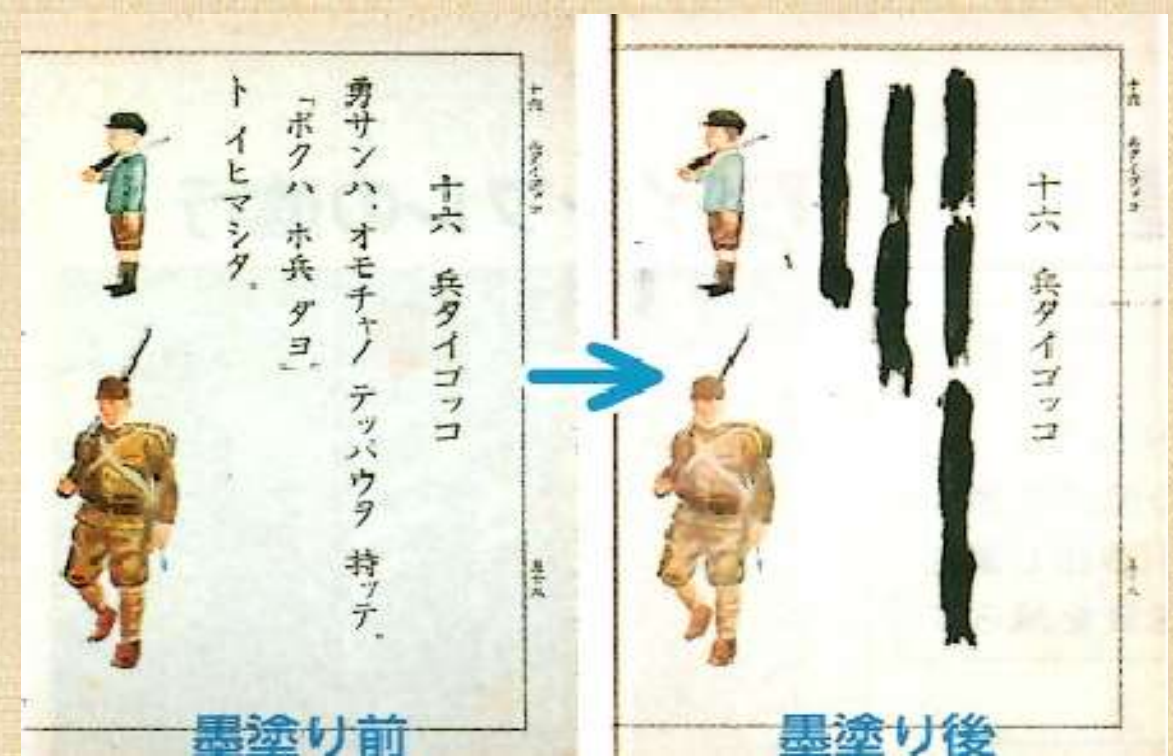
そこから自我と、そして人性の、真実の誕生と、
その発足が始められる。」



坂口安吾
(1906～1955)

武装解除する軍隊 変わっていた学校 ついていけない人々

①武装解除される軍隊、 離脱していく兵士たち



②「先生が…変わった？」

- ・ 墨塗り教科書
- ・ 価値観の激変とにわか民主主義
謝罪した先生、態度を変えた先生
- ・ 「軍国少年・少女」たちの怒り

③変化について行けない人々

ものが、食糧が手に入らない!

① 飢えと混乱

- ・ 配給の遅滞⇒食料調達が必要
- ・ 買い出し列車・闇市・タケノコ生活



買い出し列車に乗り込む人々



② ヤミを拒んで死んだ「判事」さん

インフレ・新円切り換え・ 引き出し制限=500円生活

- ① 急激なインフレの進行=物価急騰
- ② 1946/2/16 金融緊急措置令
 - ・ 3/3以後、旧紙幣(5円超)使用禁止
 - ・ 強制預金、2/17以後預金引出制限
 - ・ 財産税=資産家に高額の課税



新円(A号券)切り換え(右)
旧円に証紙を貼る(上)



紙幣発行高と消費者物価指数

戻ってきた人々

海外（旧植民地・占領地・戦場など）
からの帰還者

軍人軍属（復員）310万7千人
民間人(引き揚げ)318万9千人



樺太からの引き揚げ者



父の復員

2006年1月1日現在



* 軍に所属する文官。〈厚生労働省資料〉



立て直そうとする人々 立ち上がろうとする人々



新宿の闇市の賑わい



食糧メーデー（46年5月）

進駐軍（占領軍）がやってきた。

- ① 1945年8月28日 先遣隊の厚木到着
- ② 8月30日 マッカーサーの厚木到着
海軍の相模湾上陸



駐留軍がベースとして使っていた当時、伊丹空港入口付近（蛍池からゲートまでの道路）には米兵相手のサロンや洗濯屋、飲食店などがあったそうです。http://aranishi.hobby-web.net/3web_ara/itmkuho.htm



8月30日、厚木基地に降り立ったマッカーサー

回覧板と「特殊慰安施設協会」

①回覧板の文面

「**連合軍の進駐は…平和的にな**
されるので、暴行、掠奪等万無
きものと信じられます……連合
軍が進駐した後も従来通り警察、
憲兵が治安の取締りに当って居
りますから決して心配する必要
はありません」

②特殊慰安施設協会設立

近衛大臣の依頼⇒内務省指示
⇒8/27最初の施設オープン
必要物資は都と内務省が支給

回覧板 其ノ一 神奈川縣

一、聯合軍が近く進駐する爲、之を受入れる準備として明日より皇軍は神奈川縣一帯から撤退することになり、之に關する詳細の政府発表が二十二日朝、新聞、ラヂオ等で示されてゐます、聯合軍の進駐は一切我政府と折衝の結果、平和的になされるので、暴行、掠奪等萬無きものと信ぜられますから皆様は平常通り安心して生活して居て下さい

二、皆様が勝手に移動したりすると非常な混雜をし、皇軍が速かに秩序正しく撤退することに非常な支障を來し、却つて治安上害がありますから沈着冷靜に御協力願ひます

又軍隊輸送の爲此處二、三日は汽車バス等には一般の皆様は乗れないと思ひますが、官公吏、運輸、通信、金融機關従事者及び食糧等の配給に従事する者を除き、その他の通勤者は家に居つても宜敷く家事の都合等の爲乗車する方も我慢をして戴きたい、勿論之に依つて食糧、生活物資の配給に支障を來さない様、縣では萬全の措置を講じて居ります

三、聯合軍が進駐した後も従来通り警察、憲兵が治安の取締りに當つて居りますから決して心配する必要はありません

四、皆様は絶對警察憲兵等に信賴して、つまらぬ流言や臆測をせず沈着冷靜職場を守り落着いて家業に精勵して下さい

五、今後の成行に就ては常に町會長、部落會長を通じ又は皆様に直接お知らせ致しますから全て當局の指示を守つて行くことが此際お國に盡す道であります

六、聯合國の軍隊が上陸して來るのは二十六日以降ですがこの場合の心得は續いて回覧板で示します

8月23日ごろ神奈川県で回された回覧板
（「探検コム「占領軍がやってきた」より）

Ⅲ、戦後改革の構想 ～ポツダム宣言が求めた日本～

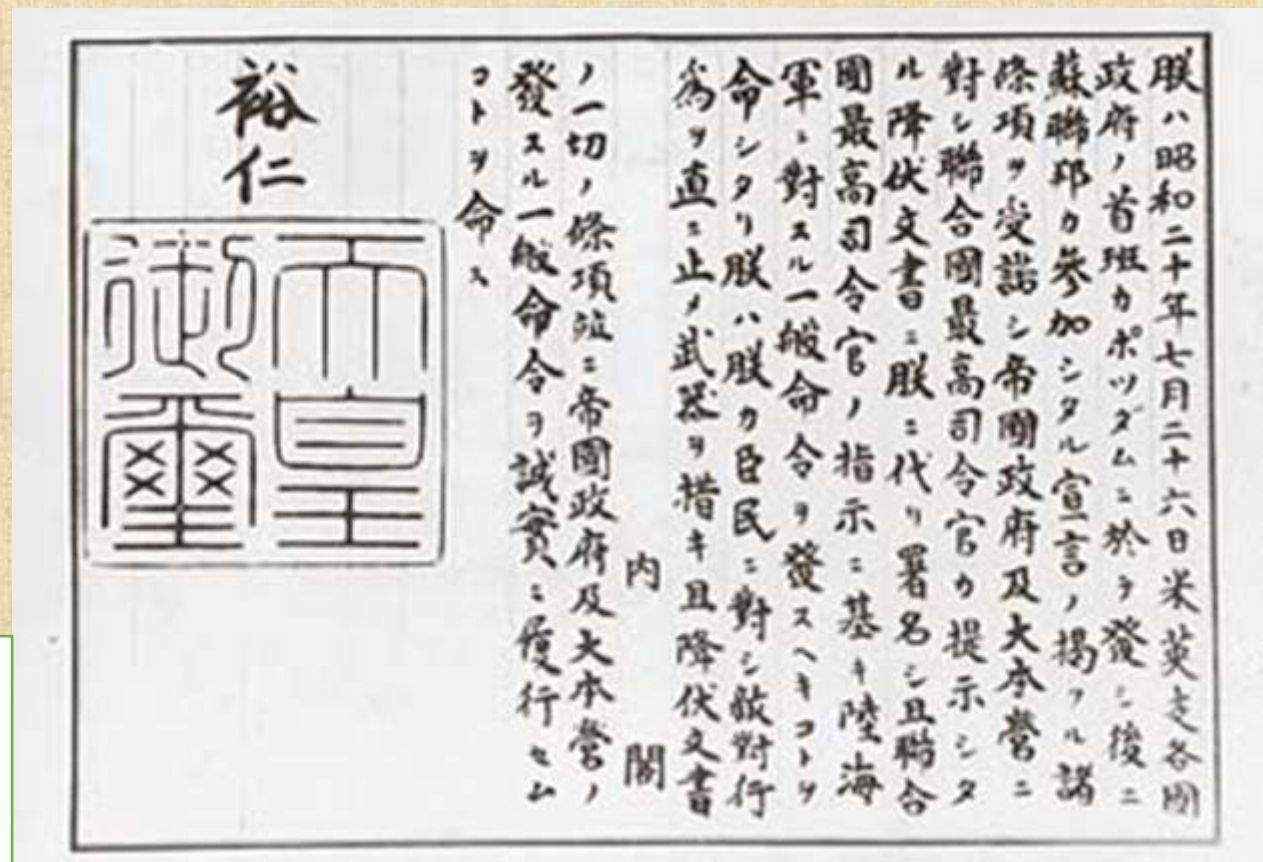


日本の終戦＝ポツダム宣言の受諾

①日本の降伏
＝ポツダム宣言を受諾する形式で実現

②日本の占領・戦後改革
⇒ポツダム宣言に示された目的、趣旨に沿って進められる

- ・45年7月 米英ソ首脳によって開催されたポツダム会議で降伏勧告文書の発表を決定→蒋介石に連絡 = 米英中三国の名で発表
- ・のちにソ連も参加する



天皇の詔書(降伏文書調印時のもの)
「ポツダム宣言の掲げる諸条項を受諾し
…降伏文書に署名し…敵対行為をただちにやめ武器をおき…」と記される

日本占領の目的

- ①軍国主義を廃絶し、
- ②日本が二度と戦争をおこさない国とするため
- ③日本を占領し、作り替える。
 - ・軍国主義者の排除
 - ・日本軍の武装解除
 - ・戦争犯罪人の処罰
 - ・民主主義的傾向の強化復活
 - ・軍需産業の破壊と賠償
- ④要求実現と同時の占領終了

⑥日本の人々をだまし、間違った方向に導き、世界征服に誘った影響勢力や権威・権力は、排除されなければならない。

無責任な軍国主義が世界からなくなるまでは、平和、安全、正義の新秩序は実現不可能である。

⑦そのような新秩序が確立されるまで、また日本の戦争遂行能力が壊滅したと明確に証明できるまで、

連合国軍が指定する日本領土内の諸地点は、連合国軍がこれを占領するものとする。
(後略)

戦後改革の目標(6・10条)

①民主主義、自由・基本的人権の尊重

1) 「日本の人々の間に民主主義的風潮を強化しあるいは復活する」

⇒ 「民主主義的風潮の…復活」の指すものは？

2) 「言論、宗教及び思想の自由並びに基本的人権の尊重は確立される」社会の実現

③軍国主義の排除

・政治的なものだけでなく、経済体制、社会のあり方、文化・思想、人間＝公職追放

⇒ 「言論、宗教及び思想の自由並びに基本的人権の尊重は確立される」という目標と対立する面も

⑩（前略）日本政府は、日本の人々の間に民主主義的風潮を強化しあるいは復活するにあたって、障害となるものは排除する。
言論、宗教、思想の自由及び基本的人権の尊重が確立されなければならない。

ポツダム宣言の内容

- ①領土…本州、北海道、九州、四国及び周辺小諸島に限定
 - ②賠償…現物賠償＝軍需にかかわる重化学工業の工場施設・設備を移設
 - ③日本からの撤退条件＝「平和的傾向の責任ある政府」が「日本国国民が自由に表明した意志」により樹立されること。
 - ④「無条件降伏」の意味
 - 1)要求項目の変更を許さない。
 - 2)軍隊解散に「無条件に」従う
- ※占領軍もポツダム宣言の拘束を受ける

⑧カイロ宣言の条項は履行されるべきものとし、また、日本の主権は本州、北海道、九州、四国及びわかれの決定する周辺小諸島に限定するものとする

⑫連合国占領軍は、その目的達成後、**従って、平和的傾向を帯び、かつ責任ある政府が樹立される限りにおいて、直ちに日本より撤退するものとする**

そして**日本人民の自由なる意志に従って、平和的傾向を帯び、かつ責任ある政府が樹立される限りにおいて、直ちに日本より撤退するものとする**

ポツダム宣言をめぐるアメリカ内部の対立 ～「立憲君主制」か、無条件降伏か～

- ①ポツダム宣言…スチムソン陸軍長官（元国務長官）
を中心に国務省で起草
- ②「立憲君主制」の文言挿入をめぐる意見対立
 - 1) ソフトピース派…天皇制維持(国体護持)を明記、**早期の降伏実現**をめざす…**グルー**ら保守派・**知日派**
←日本の旧支配層に近い、米の国益を重視する傾向
 - 2) ハードピース派…**無条件降伏達成下で、非軍国主義化・民主化のための徹底的な変革を実現**
…**アチソン**国務長官らハル元長官の系譜



ジョセフ＝グルー
(1880～1965)
アメリカの外交官。
1931～41まで駐日
大使。ポツダム会議
直前まで国務次官。

日本での「宣言」の受諾をめぐるやりとり 国体護持＝統治大権の変更は？

①45年8月10日一回目の「聖断」⇒条件付き降伏受諾の電信

「…右宣言ハ 天皇ノ国家統治ノ大権ヲ変更スルノ要求ヲ包含シ居ラザルコトノ了解ノ下ニ受諾ス」

②8月11日アメリカ合衆国(連合軍を代表して)の返信

「降伏の時より、天皇および日本政府の国家統治の権限は連合軍最高司令官に從属し、同司令官は降伏条項の実施のために必要と認める措置をとる。…日本の最終的な統治形態は、ポツダム宣言に従い、日本国民の自由に表明する意思によって決定する…」

⇒日本政府の赤字部分の公式の訳文

「…ノ制限ノ下ニ置カレルモノトス…」

③8月14日2回目の「聖断」⇒「宣言」受諾、「玉音放送」に

「…国体を護持し、得て…」

ライシャワーの傀儡天皇制論 ～ソフトピース派の戦後改革論

「天皇は自由主義者であり内心は平和主義者であると考えてもよい理由があります。

天皇を国際連合＜連合国＞と協力する政策に転向させることが、彼の臣民を転向させることよりも、ずっと易しいことであるというのは、大いにありそうなことであります。

天皇が、おそらく天皇のみが、彼の臣民に影響を与え、彼らに現在の軍部指導層を弾劾するに至らせることができるのであります。」

⇒日本の占領統治のための最重要人物として天皇を利用することを提案。



エドウィン＝ライシャ
ワー（1910～1990）

東洋学者、日本研究家
元・駐日米国大使、ハー
バード大学教授。親日派の
代表的人物とされてきた。

ポツダム宣言の歴史的意味

①第一次大戦以前：主権国家体制の枠組維持。相手国の主権を尊重しつつ、領土・植民地などを奪いあい、賠償を支払わせる。

②第一次大戦以後：国際協調（集団的安全保障）国際正義（戦争違法化など）により世界平和を実現する仕組みの成立

③第二次大戦：国際平和の枠組み・自由や人権を破壊しようとする枢軸国と、自由と民主主義を守り国際正義を回復しようとする連合国（UNITED NATIONS）との間の戦争との形式

大西洋宣言（41/8）⇒連合国共同宣言
42/1）⇒国際連合憲章

国際連合憲章（抄）
①国際の平和及び安全を維持すること。（中略）平和の破壊の鎮圧のため有効な集団的措置をとること（中略）国際的の紛争又は事態の調整又は解決を平和的手段によって且つ正義及び国際法の原則に従って実現すること。
③経済的、社会的、文化的又は人道的性質を有する国際問題を解決することについて、並びに人種、性、言語又は宗教による差別なくすべての者のために人権及び基本的自由を尊重するように助長奨励することについて、国際協力を達成すること。

IV、占領と戦後改革の始まり



8月15日以後の戦争～ソ連の南下

①ヤルタ会談（45/2）の極東密約

ソ連の千島列島領有・南樺太返還

鉄道利権獲得・旅順租借・大連の国際港化

②対日参戦(8/8)⇒8/15玉音放送

⇒8/15以後も戦闘行為を継続

③「満州」・38度線以北の朝鮮進駐

⇒日本軍を武装解除、シベリア移送へ

④千島・樺太を南下⇒南千島・歯舞色丹も 沿海州→太平洋へのルート確保を狙う

⑤連合軍最高司令官就任要求と北海道北半分の占領を米に打診⇒拒否される



東久邇宮稔彦王内閣の成立

＝「時局の収拾」のための皇族内閣

- ①首相…東久邇宮稔彦…自由主義派の皇族
近衛文麿と外相：重光葵→吉田茂⇒対米協調
内務官僚など老練、無難、保守的な人々
⇒**検閲と警察力による秩序維持をはかる**
- ②混乱を最低限に抑え、占領をスムーズに
⇒**天皇の権威によって軍の武装解除をすすめる**
- ③検閲と警察力で混乱を最小限にとどめ、
一億総懺悔で戦争責任を曖昧にする
- ④日本人による改革も模索
＝労働運動や農地改革、女性参政権など



東久邇宮内閣 最前列が東久邇宮稔彦首相。二列目右に近衛文麿無任所大臣の姿が見える。

占領の開始(8/28～※)

※正式には硫黄島・沖縄上陸以降

- ①8/28 米軍先遣隊厚木基地到着
⇒8/30マッカーサー、厚木基地到着
海軍相模湾に上陸
- ②9/2 戦艦ミズーリにおける降伏文書調印式
- ③9/8 東京での進駐式＝横浜から米大使館に
⇒9/17第一生命ビルに司令部を移転
9/25 和歌浦上陸⇒大阪を経て関西各地に
- ④在日占領軍の規模
12月までに三軍(8軍6軍英連邦軍)43万人
が本土に⇒しだいに削減
1948年には10万人規模に



第一生命ビル
皇居に面するビルを接收し、
GHQの司令部として用いた

ダグラス＝マッカーサー

(1880～1964)

- ①名門軍人一族。士官学校校長⇒参謀総長(30～)
→退役軍人の年金支払い要求を共産主義者とみなし弾圧。
「民主主義を軽蔑し、強力な指導者を求めるアメリカにおいてシーザーになり得る人物」(ローズヴェルト大統領)
- ②フィリピン国民軍を創設
- ③1941年米太平洋陸軍司令官・連合軍最高司令官として反攻作戦を指揮。
- ④1945年8月30日厚木基地に進駐。
⇒強力な権限と指導力で占領政策を主導。
- ⑤日本占領の実績により、共和党から大統領選出馬をめざす。(アイゼンハワー次期大統領の元上司)



マッカーサー (1880～1964)

陸軍参謀総長をへて、
1941年極東軍司令官として太平洋戦争を指揮。
1945年連合軍最高司令官として日本に進駐。
朝鮮戦争でトルーマン大統領と対立、解任される

降伏文書の調印式'45年9月2日

① 9/2 降伏文書の調印式

世界では第二次大戦終結の日＝VJデー

② マッカーサーのスピーチ

“この厳粛な式を転機として流血と虐殺の過去からよりよい世界、信頼と理解の上に立つ世界、人間の尊厳と、人間の最も渴望している自由、寛容、正義の完成をめざす世界が生まれてくることを私は心から希望している”



③ 強烈な感動が重光を経て天皇に伝えられた。

「われわれが勝利者であったならこれほどの寛大さで敗者を抱擁できただろうか」(加瀬)

日本を直接軍政下に?～幻の米軍布告

①9月2日、翌日の米軍布告を予告

1) **米軍の直接統治**＝日本政府の権限停止！

2) **英語の公用語化**

3) **米軍票の使用**＝日本円の使用停止！

⇒徹夜の説得と外相の直接会談で阻止に成功

②現実味?＝占領軍のコストとスタッフ不足は?

③なぜこのような布告が出たのか?

- ・日本側に対する威嚇?

- ・日本降伏⇒占領が予想外に早かったことによる混乱

ポツダム宣言に対応した計画(「初期対日方針」)の遅れ

⇒「ブラックリスト計画」(＝軍事侵攻作戦対応)との齟齬



布告撤回に尽力した岡崎勝男
終戦連絡中央事務局の初代長
官(外務官僚)

「初期対日方針」(8/11完成)

①8/11完成、8/29マッカーサーに
9/6 大統領の正式承認

②目的：占領によって「日本が再びアメリカおよび世界の平和と安全の脅威とならないように非軍事化し民主化すること」

⇒アメリカの国益が上位に示される。

③方策：軍の解体、戦争犯罪人の処罰、
民主主義の奨励、軍事力の基礎となる物資
の生産禁止・施設除去など非軍事化、
農業を含む産業や労働にかかわる民主主義
的な組織の発展の奨励など

⇒財閥解体・賠償なども記される

＜日本に関する米國の究極の目的・
当初の政策＞

A 日本が再びアメリカの脅威となり、あるいは世界平和と安全の脅威となることのないよう保証すること

B 他國家の權利を尊重し、
聯合國憲章の理想・原則に示された米國の目的を支持すべき
平和的かつ責任ある政府を樹立すること、

米國はこのような政府がで
きうるかぎり民主主義的自治
の原則に合致することを希望
するが、自由に示された國民
に意思に支持されないような
政體を日本に強要することは
聯合國の責任ではない

間接統治と直接軍政

① 間接統治… 占領軍が現地政府を通し統治

低コスト・当面の反発の弱さ ⇔ 改革の不徹底

現地政府のサボタージュの頻発の可能性

⇒ ときに強圧的態度も必要

日本：米軍による命令＝ポツダム勅令

② 直接軍政… 占領軍による直接統治

「ドイツ占領地」「南朝鮮」、沖縄・奄美

自由な占領政策、コスト高、激しい反発抵抗

⇒ 占領地の民心掌握が重要（例：琉球諮詢会）

③ 日本占領… 両者の混在＝間接統治、直接軍政 ＝沖縄、奄美群島（～53）・小笠原諸島（～68）



占領費用は日本側が負担 ～日本人の「自業自得」

- ①日本人の生活難は「自己責任」「自業自得」⇒自力で更生せよ
- ②**占領軍の駐留経費や労務は日本側が負担**することを「期待する」
 - = 占領期の**国家予算の1／3弱が駐留費**
 - = **沖縄における駐留費用も負担**
⇒**沖縄での通貨政策の混乱**
- ③食糧不足による**饑餓の広がり・社会不安の増大**⇒**アメリカ・世界は食糧の緊急援助を実施**

日本国の政策は、日本国国民に経済上の大いなる破滅をもたらし、日本国国民を経済上の困難と苦悩の見透しに直面させている。

日本の苦境は日本国自身の行為の直接の結果であり、
連合国はそうむった損害復旧の負担を引受けない。
(初期方針)

占領軍の必要とする物資および労働の調達にかんしては、
これによって**飢餓、疫病の流行**およびはなはだしい**生理上の困難**を発生させない程度において
日本側が調達することを期待する。(初期方針)

占領初期の活動の困難さ ＝体制作りと武装解除と戦犯逮捕

占領軍…不十分な軍事力と体制で、「凶暴な」日本軍と「不可解」な日本人を支配する必要

① 占領軍体制の未完成とスタッフ不足

GHQ・SCAP組織の完成⇒10/2

② 戦犯逮捕の開始＝**東条元首相らを逮捕**

③ 武装解除＝日本軍の無力化

9月下旬、日本軍の無力化のほぼ達成

10/16参謀本部・海軍軍令部解散＝終了

⇒本格的な改革の着手に（外相：重光→吉田）



自殺に失敗、GHQの病院で手当を受ける東条元首相（Wikipedia「東条英機」）

GHQ・SCAP

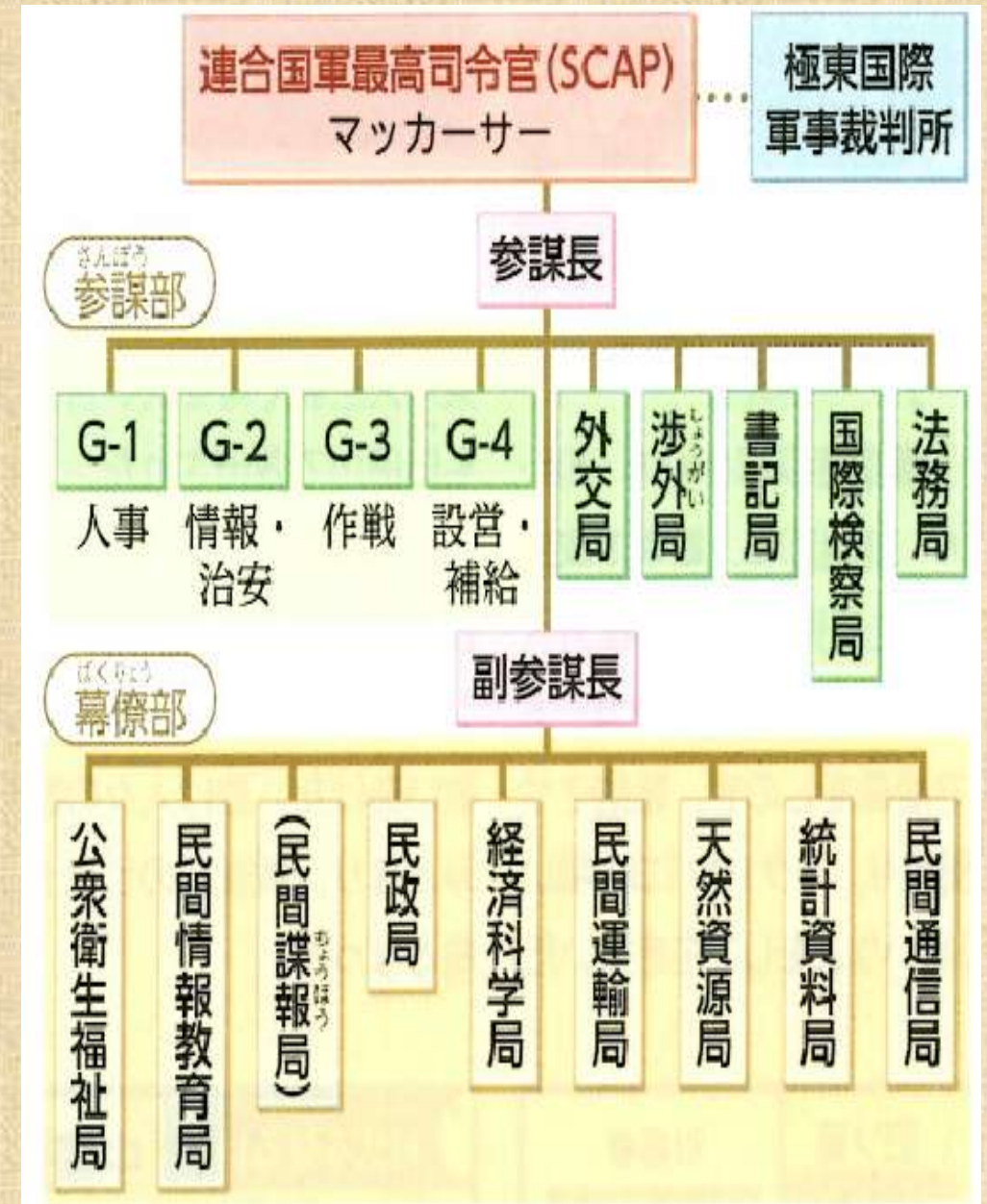
連合軍最高司令部最高指揮官

①組織が完成するのは10/2

②主な機関

- **民政局 (GS) …民主化の中枢機関**
革新勢力(ニューディーラーら)の牙城
ホイットニー局長(弁護士)ケーディス次長
- **参謀第二部 (G2) …保守勢力の牙城**
検閲と諜報活動 ウィロビー部長
- **経済科学局 …財閥解体・労働改革**
マーカット局長

⇒各部局が日本の官僚機構と結び、
独自の活動を展開する傾向



「無制限の権力を持つ絶対的な支配者」 ～マッカーサーの自負

「私は日本国民に対して**事実上無制限の権力**
を持っていた。

歴史上いかなる植民地総督も、征服者も、総司令官も、私が日本国民にもったほどの権力を持ったことはなかった。私の権力は至上のものであった」

「私は八千万を越える**日本国民の絶対的な支配者**となり、日本が再び自由諸国の責任ある一員となる用意と意志を示すまでその支配権を維持することになったのである。」

（「マッカーサー回想録」）



国家統治権は貴下に従属する ～マッカーサーが連合国から受けた命令

「降伏の瞬間より、天皇と日本政府の国家統治権は貴下に従属し、貴下は降伏条件の実施に貴下が必要と認める措置をとる。

われわれと日本の関係は、契約によるものではなく、無条件降伏によるものである。

貴下の権力が至上である以上、貴下はその権力の幅について日本側の疑義を挟むことを許してはならない。」

⇒このことを日本の政府と国民ははっきりした形で認識していなかった。

…なにか劇的な出来事が、それも日本人の誰にもわかるような形で作り出されることが必要だったのである。（袖井林二郎）

V、戦後改革の本格化



戦後改革の見取り図～諸勢力の暗闘として

1, 占領軍内（さらに米国政府でも）の諸勢力と志向の併存

A, ①マッカーサーの下で、②ポツダム宣言の理想を重視する勢力

③アメリカの利害を重視する勢力、が併存

B, ①軍国主義根絶・民主化推進を重視する志向、

②都合よく日本を改変しようという志向、の併存

2, 日本国内の諸勢力と志向

それまでの指導層

⇒ ①対米協調の指導部、②排除された人々＝軍国的？反米？

＝政党政治期への復帰(主流)、1930～40代の評価は？

③官僚組織の継続＝戦時体制下の急進的改革の継続

④民衆の動き＝戦前と戦争に対する思い、生活困難と立て直し

3, 背景としての世界の潮流・国際関係

①国際協調・反軍国主義 ⇒ ②東西対立から冷戦へ

天皇・マッカーサー会談(1945年9月27日)

昭和天皇・マッカーサーの協力体制成立⇒象徴天皇制へ

- ①9月27日 昭和天皇・マッカーサー会談の実施
- ②昭和天皇…天皇制存続のため、積極的な協力を申し出る
軍の武装解除、国民への訴えかけ、憲法改正工作・支持など
- ③マッカーサー…占領政策遂行への天皇の協力確保
武装解除と平和的な進駐への天皇の関わりに注目
- ④会談⇒天皇制存続と天皇の占領政策への全面協力
体制の実現＝「傀儡天皇制」に
- ⑤以後、天皇制維持＝象徴天皇制の実現に
天皇の戦犯指定断乎拒否、米政府をも恫喝



昭和天皇(1901～89)

「人権指令」と東久邇宮内閣の崩壊 ＝占領の第一段階の終焉

①天皇会見の写真報道＝日本の支配者がマツカーサーであることをビジュアルに表現

⇒内相・新聞の発行禁止処分⇒GHQ取り消し

②9/22「初期占領方針」発表⇒/24三木清獄死

⇒10/3山崎巖内相…政治犯釈放の拒否・思想犯の治安維持法による逮捕を言明

③10月4日「**人権指令**」

治安維持法などの廃止、政治犯釈放、特高警察などの解散・関係官吏の罷免、内務大臣の解任

③10/5 **東久邇宮内閣総辞職**

＝占領の第一段階の終焉



幣原内閣の成立＝戦後改革の本格化

① 幣原喜重郎内閣の成立

幣原首相…1920年代の協調外交の担い手

吉田茂外相・芦田均厚相・松本烝治大臣ら

自由主義派＝米英派、外交官らが中心

② 「民主主義的傾向の復活・強化」(ポツダム宣言)＝政党内閣時代の復活と理解

(←グルーらソフトピース派に対応)

③ 改革の目標：1930年代以降の軍国主義的な偏向、軍部やそれと結んだ官僚らを排除で達成できると考える。

⇒1930年代初のころの矛盾は…？



五大改革指令と幣原首相

①45/10/11 マッカーサー、幣原首相に対し以下の改革を指示

憲法の自由主義化に加え、

- 1) 女性参政権を与えること
- 2) 労働組合の奨励
- 3) 教育の自由主義化
- 4) 国民を弾圧する制度・組織の排除
- 5) 経済の民主主義化

②幣原、「5つの指令」は政党内閣時代に手がけていたものであり間違えなく取り組むと回答

⇒「憲法の自由主義化」は聞き流し、

「民主主義」や「自由主義」の内容は各国によって異なると発言、財閥解体には反論も



幣原喜重郎

(1872-1951)

大正末から昭和初期、対英米協調を旨とする幣原外交を展開。昭和20年首相となる。

五大改革指令と戦後改革

～日本が準備した改革、GHQがすすめた改革

① 女性参政権、労働組合法

…政党政治期に計画され、東久邇宮内閣でも検討

11月女性参政権を含む選挙法改正

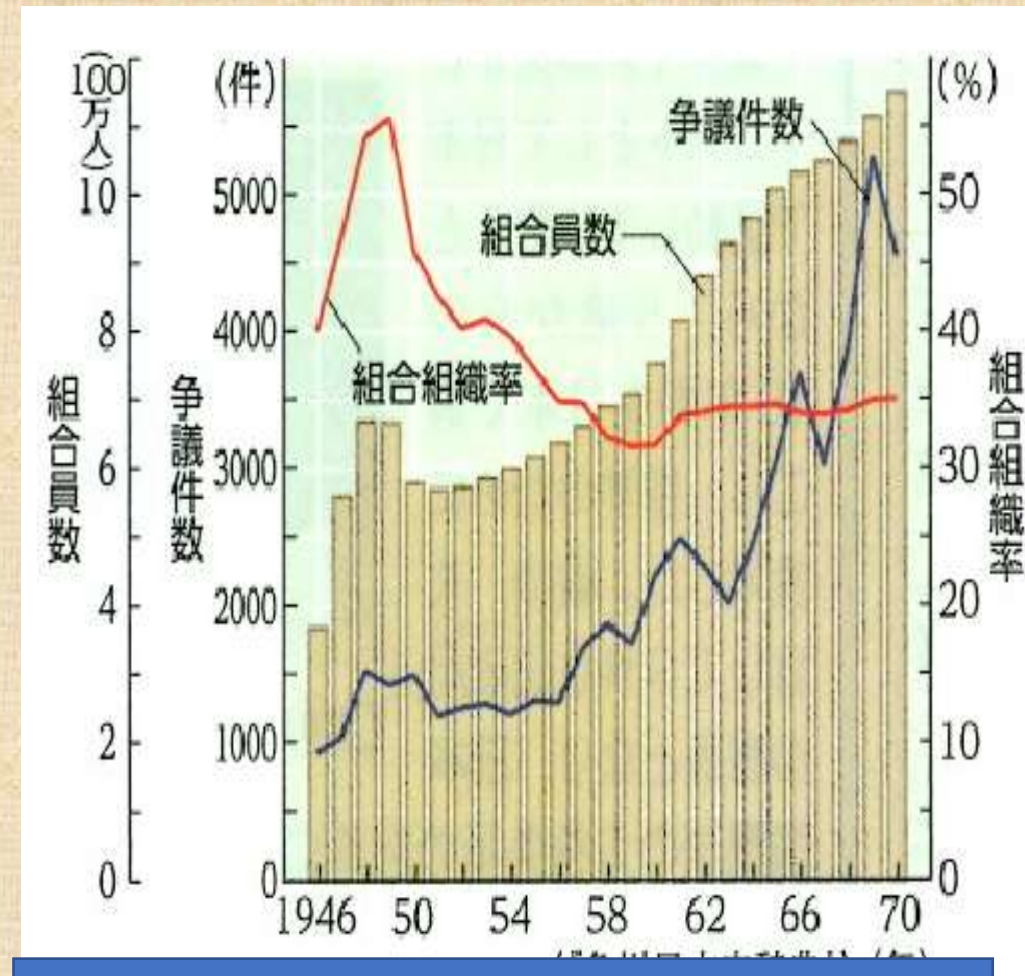
12月労働組合法制定

(世界的にも画期的内容を含む)

② 治安維持法や特別高等警察の廃止

⇒10月の「人権指令」のもとで実現

→政治犯釈放、日本共産党の活動再開



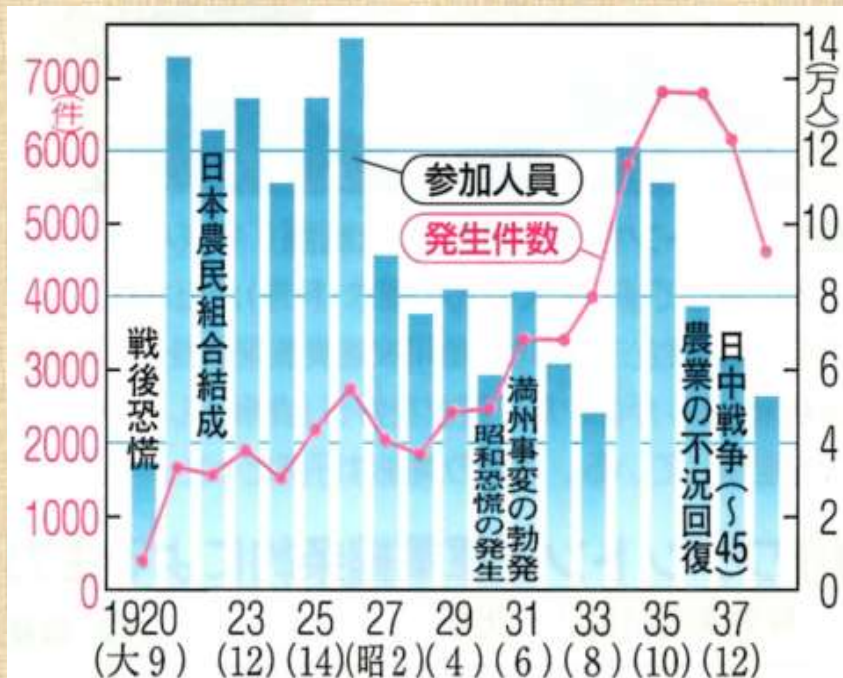
労働組合と労働争議

農地改革とその背景

日本側主導⇒連合軍の力で全面的に実施

(「五大指令」には明示されず)

- ①地主・小作制＝戦前日本の社会経済の足かせ
国内市場の狭隘さ・農産物価格・半封建的社会
⇒貧困と小作爭議など社会不安の温床
- ②戦時体制…生産力向上と農産物供出の障害に
中規模・耕作農民の保護・補助金支給など
⇒地主の特権剥奪＝衰退化すすむ
- ③農林省…戦前から地主小作制度改革を模索
戦中～戦後⇒農地改革として計画を本格化



上：小作爭議の激化
右・下：戦時下の食糧
不足のなかで米供出と
配給制度が重要となる。



「経済史要覧」

供出米強制措置

砂糖・マツチに切符制 決定

農地改革

①松村農相のもとで、**農地改革法案**準備⇒提出
地主らの巻き返し＝内閣⇒帝国議会での議論

②45/12**第一次農地改革法**成立＝対象の縮小
⇒**GHQの介入⇒法案の再提出を要求**

G H Q：地主制と財閥が軍国主義の基礎と考える
対日理事会での議論⇒イギリス案を基礎に

③46/10 **第二次農地改革法**の成立

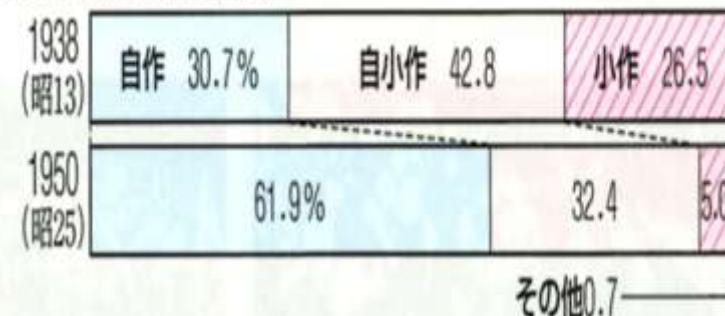
不在地主はすべて、在村地主は1町歩の小作地を
政府が強制買い付け、小作農に廉売

⇒**地主小作制度の解消・農村の民主化進行**
＝保守の地盤に

①自作地と小作地の割合



②自小作別の農家割合



③耕地面積別の農家割合



注) 1町=10段=1ha

(「農林省統計表」)

財閥解体～財閥家族の退出

①財閥解体＝GHQ主導・「初期対日方針」で明示

⇒経済科学局が財閥家族への直接働きかける

②10月財閥家族は企業経営から撤退

「持株会社の解体、財閥家族の企業支配力の排除、
株式所有の分散化」

③その後、財閥家族・大企業経営者らの公職追放

⇒若手企業経営者の台頭

④背景：1930年代～財閥の影響力低下

重化学工業化＝資金需要の巨大化

⇒直接投資から銀行経由の間接投資へ

総動員体制＝資本と経営の分離の進展

（イ）将来ノ日本国
ノ経済活動ヲ専ラ平和
的目的ニ向テ指導セザ
ル者ハ之ヲ経済界ノ重
要ナル地位ニ留メ又ハ
斯ル地位ニ選任スルコ
トヲ禁止スルコト

（ロ）日本国ノ商工業
ノ大部分ヲ支配シ来リ
タル産業上及金融上ノ
大「コンビネーショ
ン」ノ解体計画ヲ支持
スベキコト

（「初期方針」）

財閥解体のもう一つの顔

～経済官僚の産業界支配～

①戦時体制…国家＝官僚の産業界への影響力拡大

総力戦＝資源配分・生産・流通等の掌握の必要

資本と経営の分離

企業の産業別統合＝国策会社の発足

⇒官僚による産業界指導の進展

②敗戦＝財閥家族の影響力の回復？

⇒官僚が占領軍の力を借り政治家や議会の動きを抑え

⇒占領軍が官僚組織の協力で財閥解体を実現

日本経済の非軍国主義化・民主主義化？

③戦後経済…官僚による行政指導＝高度経済成長の背景

もちかぶ

持株会社(83社)

1946年9月6日～

47年9月26日

三井・三^{みつびし}菱・住友・安^{やす}田などの4大財閥本社や浅野・日本窒素肥料^{ちっそ}などの中小財閥が指定を受け、そのうち32社が解体

財閥家族

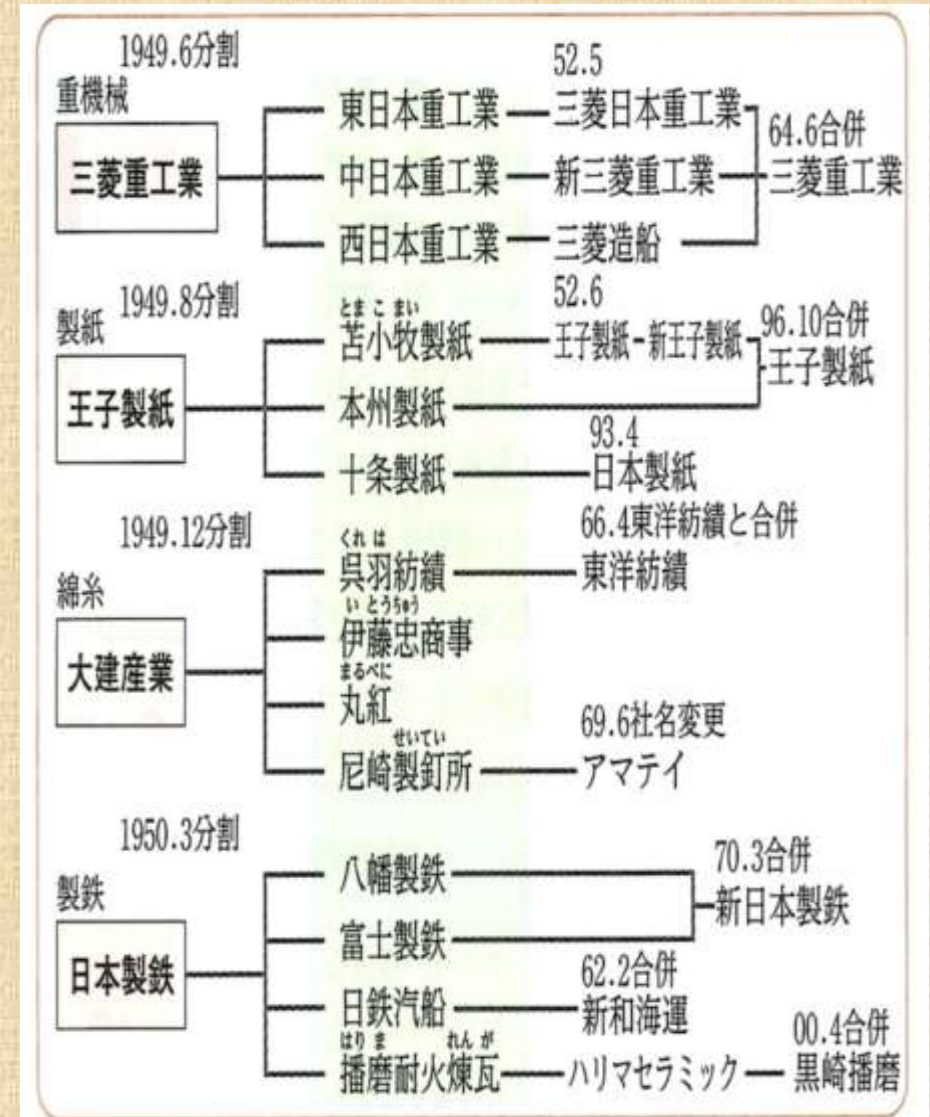
10家56人

1947年2月20日

三井(11名) 岩崎(11名)
住友(4名) 安田(10名)
中島(5名) 野村(4名)
浅野(4名) 大倉(4名)
古河(2名) 鮎川(1名)
(のち安田1名追加指定)

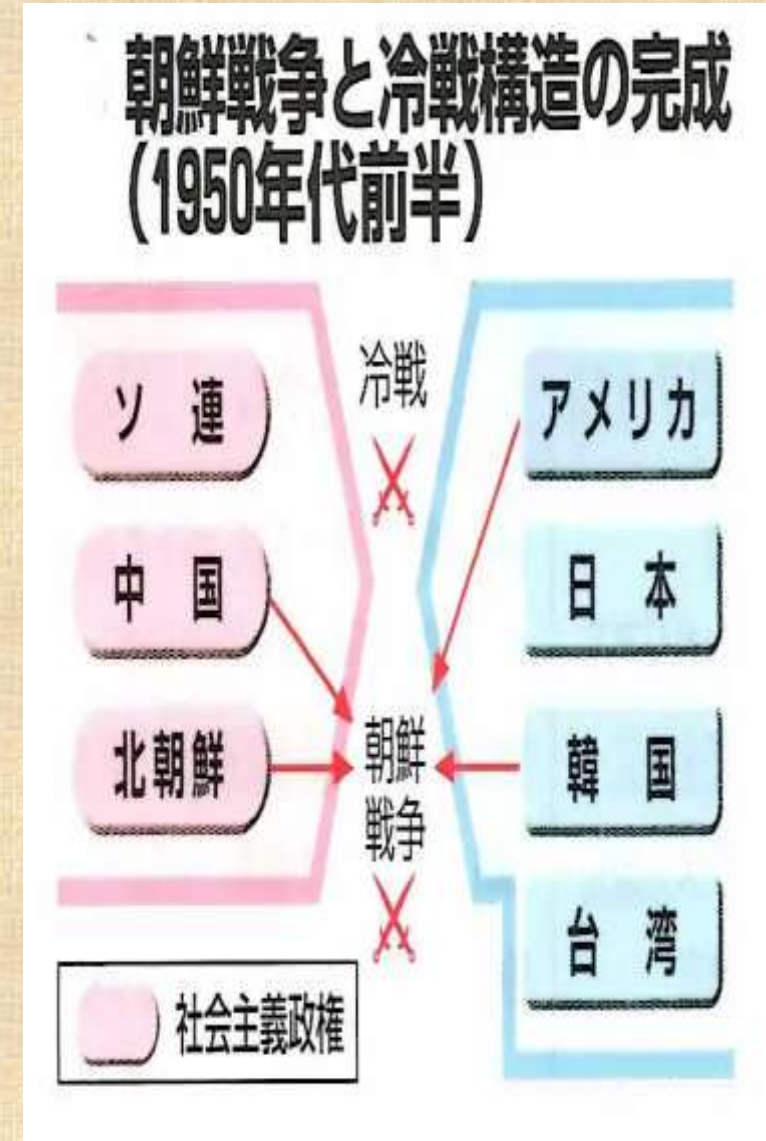
「財閥解体」の広がり と 挫折

- ①GHQ…広義の「財閥解体」へ
企業グループや巨大企業の解体をめざす
 - ・ 独占禁止法 ・ 過度経済力集中排除法 など
- ②会社側や官僚ら日本側のサボタージュ
- ③冷戦の深刻化＝中華人民共和国建国など
⇒アメリカの方針変更＝財閥解体の挫折？
- ④「財閥」は、旧財閥系銀行を中核とする財閥家族なしの企業グループとして復活
＝「財閥の近代化」？！



財閥解体政策と、政策変更の背景

- ①財閥解体・日本経済の非軍国主義化政策
＝米英の日本経済の弱体化政策の側面も？！
- ②アメリカの国際政策＝東洋の小国(スイス)に
アジアのリーダーは蒋介石支配下の中国に
⇒日本からの現物賠償による経済発展を期待
- ③1947～冷戦の激化（欧州→極東へ）
国共内戦の激化⇒1949中華人民共和国建国
- ④アメリカの世界戦略の変更（1948～）
「日本は共産主義の防壁」（48/1 ロイヤル演説）
日本の経済復興と西側の兵站基地化をめざす
⇒戦時賠償の軽減に＝重化学工業の復活に



教育の自由主義化 ～軍国主義を支えた日本の教育

①それまでの教育

- ・ **国民教化の中心（中心としての教育勅語）**
「修身」「国史」「国語」「唱歌」＋行事
- ・ 軍隊のための行動・肉体づくり＝「体操」
⇒ **国民を戦争に向かわせた大きな存在**

②総力戦体制＝学校と軍隊の一体化

⇒軍事教練など

戦時下…「小国民」を育てる教育

勤労働員・集団疎開など

③敗戦＝謝罪する教師、態度を変えた教師

「偉い人の言うことは信じない」子どもたち



戦争中に作られた「教育勅語図
解説本」のさし絵

教育の自由主義化

①敗戦後の教育＝**軍国主義の排除と民主主義**

「青空教室」

「墨塗り教科書」「くにのあゆみ」

②**教育基本法**（'47）

新憲法の理念の実現するための教育理念

③ 米教育使節団の来日と日本側との懇談

⇒6334制の単線型教育制度（学校教育法）

④**教育勅語の排除決議**（'48）←**激しい抵抗**

「**国家が国民に真理を押しつけようということ自体が誤りである**」



墨塗り教科書

VI、憲法制定



④新しい憲法のはなし

近衛の憲法改正作業

①近衛による憲法試案検討

天皇(宮内省)とマッカーサーの意を受け、憲法改正に着手

②京都帝大の佐々木惣一教授を中心に憲法改正作業を開始

③国際世論の反発によりマッカーサー信任を撤回。

④12月戦犯指定⇒近衛の自殺により挫折

近衛(佐々木惣一) 草案(抄)

一、天皇は統治権の総攬者であり同時に行使者であるが、その行使は万民の翼賛によることを特に明記する(新条文)

一、軍の統帥、組織の大権は専ら帷幄機関の輔佐によりこれを行ひ国務大臣の職務に属してゐなかつたが軍の統帥及び組織も国務であることを特に明記する

一、この宣戦、講和、条約締結は帝国議会の協賛を経て行ひ民意に諮る

一、その他の大権事項も帝国議会の協賛を経て行ふ

憲法問題調査委員会（松本委員会）

①幣原内閣…憲法問題調査委員会（松本委員会）の設置＝憲法改正を前提としないが

- ・松本烝治国務相が主幹
- ・美濃部達吉や宮沢俊義ら東京帝大関係者中心

②天皇機関説を前提とし小規模な改正を想定

GHQとの意見のすりあわせを拒否

③多くの関心、外部から統帥権廃止・軍備廃止など軍隊の扱いにかかわる意見が集中

④松本の独断での草案作成

第3条 天皇ハ至尊ニシテ侵スヘカラス」

第11条 天皇ハ軍ヲ統帥ス



松本烝治 1877－1954 商法学者,政治家。東京帝大の教授。幣原内閣国務相として憲法改正草案を作成する。

憲法研究会案の憲法試案

～象徴天皇制の導入

①憲法研究会…高野岩三郎・森戸辰男ら在野の知識人が結集、在野の研究者鈴木安蔵が中心

②象徴天皇制を先取りする

- ・「日本国の統治権は日本国民より発す」と明記
- ・「天皇は国政を親みずからせず、国政の一切の最高責任者は内閣とす」
- ・天皇は「国家的儀礼ヲ司ル」もの

③草案に民権運動期の私擬憲法の内容を反映 
＝「民権運動の地下水」をくみ上げる

④GHQ「いくつかの修正をするだけで十分に使える」との高評価⇒GHQ草案に影響を与える



鈴木安蔵（1904～83）
憲法学者、自由民権運動の研究者。日本国憲法の基礎となった憲法研究会の憲法試案作成の中心となった。

「天皇の人間宣言」

①46年1月1日 昭和天皇、

「年頭の詔書」を发表

⇒日本の民主主義の原点を
五か条の誓文に求め、天皇と
国民との深いつながりを
強調する

②「天皇ヲ以テ現御神トシ、且日本国民ヲ以テ他ノ民族ニ優越セル
民族ニシテ、延テ世界ヲ支配スベキ運命ヲ有ストノ架空ナル觀念ニ
基クモノニモ非ズ」と記す。現人神としての天皇を否定

⇒明治憲法の実質「万世一系」を否定したわけではない…？



「天皇の人間宣言」と愛される天皇制

③GHQ・新聞…この詔書を

「**天皇の人間宣言**」として絶賛

⇒「**天皇は変わった**」とアピール

④作成の経緯

- ・ **原案執筆はGHQ関係者**
- ・ 内閣→天皇自身が大幅に加筆
- ・ GHQは原案部分を誇張し絶賛

⑤以後、地方巡幸の活発化…

「**神聖不可侵な天皇制**」から「**愛される天皇制**」へ



昭和天皇は1946年以降、精力的に全国を回った。写真は1949年の福岡でのもの。帝国書院「図録日本史総覧」P288

天皇制をめぐる暗闘 ＝GHQ草案作成の背景

①連合国、とくに豪州とソ連⇒東京裁判における戦犯として天皇の訴追を要求

アメリカ国務省…天皇の戦犯としての調査を要請

⇔マッカーサー無視

「天皇を処罰すると内乱が発生し、100万人の米軍が必要になる」と恫喝

②GHQの上部機関として連合国11カ国からなる極東委員会の設置決定⇒3月開催予定

③独裁者マッカーサーですら「天皇を守り切る」ことは困難な状態に

①連合国軍の日本統治機構



GHQ草案作成へ

① 天皇制の維持が困難な状況に

極東委員会の開催、天皇訴追の可能性の高まり

② 天皇制に批判的な国々や勢力を納得させる 具体物が必要に

③ 日本国民の成長と天皇への敬愛を示す必要

「日本人民の自由なる意志に従って、平和的傾向を
帯び、かつ責任ある政府が樹立」されつつあり、そ
のなかに天皇の存在も位置づけられる憲法に期待す
る必要があった

④ 1946年2月1日、毎日新聞のスクープ

松本憲法草案＝日本案に絶望

⇒ GHQ草案作成を決意



松本草案のスクープ記事

(毎日新聞 46年2月1日)

その内容は極めて保守的なもので
マッカーサーを満足させるものでは
なかった。

GHQ草案の作成 (2/3~12)

- ①2月3日朝、マッカーサー、憲法草案作成を命令
「**1)天皇は元首を最高位とする 2)戦争廃止**
3)封建制度廃止」の三原則にしたがうこと。 
- ②GHQ民政局のメンバー25名を集め、
2/12までに完成させるよう命じる
- ③資料として
 - 1) 手に入る限りの世界の国々の憲法など
 - 2) 憲法研究会の草案など
- ④ベアテ=シロタ(22才)…幼い頃に聞いた日本の女性の悲惨を救おうと女性の権利を憲法に
- ⑤「**アメリカの政治思想のほとんどすべてを反映している**」(マッカーサー宛ホイットニー將軍メモ)内容に



マッカーサーのねらい

～最高レベルの模範解答ならケチをつけられない。

①マッカーサーのねらい

- 1) 天皇制を残し、天皇制に否定的な国も納得するだけの**最高水準の内容と質をもつ憲法案**を作る
- 2) かつ「**日本人**」が自主的につくった体裁で

②納得される条件として

- 1) **天皇を儀礼的な存在とし統治権を奪う**
- 2) **戦争放棄、軍備不所持、国際社会への信頼など第一次大戦以後の戦争違法化の思想を反映する。**
- 3) **自由・人権・民主主義、さらに労働権・社会権など世界でもっとも先進的な条項をとり入れること**

③日本人自身が「軍国主義的な色彩を排除し、当時でもっとも質の高い内容の憲法を作る、だから天皇制を維持させてほしい」という形式をつくる

⇒草案をただちにワシントンに送る



幣原喜重郎 憲法9条の戦争の放棄と戦力不保持は幣原首相の提案といわれる

GHQ草案の提示と恫喝！(2/13)

2月13日、日本案への意見を聞きに来た松本らにGHQ草案を手渡す。

①ホイットニー将軍の演説内容

「日本政府案は全然『アクセブタブル』のものでない。司令部にて案を作製したり。本案は**連合諸国にも司令部にも『アクセブタブル』のものなり**。本来は強制的に押しつけるものに非ず。本案は日本国民の要望するものと信ず。司令部は天皇を支持しきたり。本案は**天皇制を支持し天皇反対者連中より天皇を護る唯一の方法なり**」(白洲手記より)

②ホイットニー将軍の雑談！

「白洲氏に語った。『われわれは戸外に出て、**原子力エネルギーの暖をとっている**ところです』」(ラウエルらによる会談記録)

GHQ草案から政府草案へ

①2/13～政府側の混乱とさまざまな「抵抗」⇒修正不可

2/21 幣原の司令部訪問⇒M「天皇の意見を聞いたらどうか」

2/22 幣原の天皇謁見

②3/4～5 GHQにおいて、政府草案の確定作業を実施

翻訳を利用したの「修正」作業

- ・「主権が国民に存することを宣言し」

⇒「国民の総意が至高なものであることを宣言し」

- ・「すべての自然人」「人民」⇒「国民」など

③3/6 憲法改正草案要綱を天皇勅語・首相談話と共に発表

⇒マッカーサー支持声明「深い満足と共に発表する」

④極東委員会の困惑「最終的採決には委員会の承認を必要とする」

⇒結局、マッカーサーに押し切られる

総選挙の実施と草案審議に

①米政府⇒視察団派遣と総選挙延期の指示

②46/4**総選挙の実施**

・政府憲法案の発表後に実施（米政府の指示を無視）

1)46/1 翼賛選挙の推薦議員などの公職追放

⇒戦中からの議員の大半は追放に

⇒8割が新人議員に

2)女性参政権を定めた選挙法により実施

⇒39名が女性議員

③第一次吉田茂自由党内閣成立

←党首鳩山一郎の追放による混乱をへて成立

④国民代表による憲法について審議の形式確保



▲公職追放で空席だらけの貴族院議場



マッカーサーの先制攻撃成功 ～「天皇」制は守られる。

①米・国務省による調査団の派遣⇒報告

「知的関心の高いほとんどの人が憲法に賛意を示している」

「時宜に適い、賢明なものであったと確信する」

⇒知識人・国会内外の憲法案への取り組みを高く評価

②米政府・極東委員会、憲法案を追認

=マッカーサーの先制攻撃成功

③6月東京裁判のキーナン首席検察官

「天皇を裁判にかける気はない」と言明

⇒天皇と天皇制の継続確定（象徴天皇制へ）

党派名	立候補者	当選者	女性当選者	得票率
日本自由党	485人	140人	5人	24.4%
日本進歩党	376	94	6	18.7
日本社会党	331	92	8	17.8
日本協同党	92	14	0	3.2
日本共産党	143	5	1	3.8
諸派	570	38	10	11.7
無所属	773	81	9	20.4
計	2770	464	39	100.0

日本国憲法の制定

①国会での活発な議論と修正

1) 国民主権をめぐる議論

→ G H Q の介入もあり「国民主権」を明示

2) 9条（戦争放棄）についての議論

→ 党派を超えた議論、とくに反対意見なし

「正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し」の一文を挿入

「芦田改正」→ 一項と二項にわけ「前項の目的を達成するために」という一文を挿入

⇒ 自衛のための戦力保持が合憲の根拠となる

② 1946年11月3日日本国憲法の公布

⇒ 1947年5月3日施行



衆議院で憲法改正案説明する
金森大臣(1946年7月1日)
(国立国会図書館「日本国憲法の誕生」より)

VI、おわりに ～世界史から見た戦後改革



戦後改革の背景にあったもの

- ①戦争への反省＝反軍国主義の動き
←日本軍国主義復活への恐怖(中・豪・比など)
自由と人権、民主主義をもとめる動き
- ②生命と生活を守ろうとする人々の営み
新しい日本を築こうという思い
- ③戦前の矛盾(「半封建制」など)解消への動き。
戦時体制での「現代国家」化
- ④戦前の体制や秩序(とくに天皇制や「家」など)を
維持しようとする力
- ⑤とくにアメリカの国家利益・世界戦略に合致
した日本へ変えようという要求



⬆️新しい憲法のはなし

冷たい戦争と逆コースの開始（1948～）

冷たい戦争の深刻化＝戦後改革を支えた国際的基盤の解体

反軍国主義・反ファシズムにもとづく国際協調

⇒米中心の反共陣営とソ連など「共産主義」陣営の対立へ

①東アジアにおける軍事基地の提供

沖縄基地のみ提供⇒全土の基地自由使用の継続

②西側の工業生産力（とくに重化学工業）の一翼を担う事を期待

軍需産業の撤去・現物賠償

⇒重化学工業の発展＝武器・資材供給への期待

③占領費用の削減

経済の立て直し＝インフレ脱却・経済発展を希望

米軍の肩代わりとなる軍隊の設置（再軍備要求）

「東洋のスイス」から「反共の砦」に ～アメリカの対日政策の変更～

①アメリカの対日政策…日本の無力化⇒有力な同盟国に

「東洋のスイス」＝平和で民主的な経済小国

⇒「反共の砦」＝西側に基地と物資・資金・軍事力を提供

②対米協力・排除の対象変化

民主主義・平和主義・労働運動＝旧軍人・軍国主義者の追放

⇒反共産主義・社会経済秩序優先＝追放解除→レッドパージ

③東京裁判＝1948年12月23日処刑⇒翌24日戦犯容疑者釈放

戦後改革の曲がり角～逆コースの中で

1, 占領軍内の諸勢力と志向の併存

A, ①マッカーサーの下で、②非軍国主義化の~~体制~~をめざす勢力

③アメリカの利害を重視する勢力、が併存

B, ①軍国主義根絶を~~せよ~~とする志向、

②アメリカに都合よく日本を改変しようという志向、の併存

2, 日本国内の諸勢力と志向

①対米協調の旧指導部、②~~排除~~する旧指導部⇒復活させる

=政党政治期への復帰(主流)、1930～40代の評価は？

③官僚組織の継続=戦時体制下の急進的改革の継続

④民衆の動き=戦前と戦争に対する思い、生活困難と立て直し

3, 背景としての国際関係の変化

①国際協調~~×~~反軍国主義 ⇒ ②東西対立から冷戦へ

サンフランシスコ平和条約・安保条約・行政協定 高度経済成長

①片面講和

…米国の同盟国・西側の一員としての独立
沖縄のアメリカへの提供

②安保条約・行政協定

…米軍基地の自由使用を承諾

③高度経済成長

…西側経済の中心的な核としての成長
⇒米のアジア・世界戦略を支える

④敗戦の記憶・戦後改革

⇒日本の不可逆的な変化も実現＝自由や人権などの定着



<参考文献>

福永文夫『日本占領史1945～1952』

古関彰一『日本国憲法の誕生・増補改訂版』

袖井林二郎『マッカーサーの2000日』

佐々木隆爾『占領・復興の日米関係』

ジョン＝ダワー『吉田茂とその時代』『敗北を抱きしめて』

豊下櫛彦『昭和天皇の戦後日本』『昭和天皇・マッカーサー会見』

原彬久『吉田茂』『岸信介』 野口悠紀雄『一九四〇年体制論』

中村政則『象徴天皇制への道－米国大使グループとその周辺』

中村隆英『昭和史2』『昭和経済史』

松尾尊兌『国民国家への出発』竹前栄治『占領と戦後改革』

吉田裕『アジア・太平洋戦争』『昭和天皇の終戦史』

タカシ・フジタニ「ライシャワー元米国大使の傀儡天皇制構想」